（様式専 4）

専門医試験の詳細症例報告書の１例　　申請者名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

患者イニシャル		年齢	M ・ F	カルテ No.
T.N.		13 歳	M	○○-○○○
初診年月日	**主訴**	**障害の診断名**		
202○年○月○○日	定期検診希望	自閉スペクトラム症　知的発達症(知的能力障害))		

障害(疾患)の既往歴

2 歳　IDD の診断　5 歳まで作業療法を実施

3 歳　ASD の診断

6 歳　パニックがひどくなり、抗精神病薬を処方

　　○○病院へ 2 か月に 1 回の定期受診

6 歳　特別支援学校へ入学

　　他、特記すべき疾患なし

歯科疾患の既往(現病歴を含む)

3 歳時　定期検診を希望し、歯科医院を受診するも口腔内診査できず。

7 歳時　学校健診にて歯科受診を勧められる。近くの歯科医院を受診。

　　口腔内診査後、パニックとなった。

　　以後、歯科受診できず。

現症(全身、障害、ADL、口腔内状態を含む)

全身

身長 150cm　体重 45kg　心拍数 75／m　血圧 106／55mmHg　$SpO_2$98%

常用薬：リスパダール 1mg

IQ　35、　療育手帳　A、

ADL　衣服の着脱：自立　食事：自立、排尿：自立　排便：部分介助　歩行：独歩

特性：奇声あり、思いが叶わないとパニックを起こすことがある

遠城寺式・乳幼児分析的発達検査

　　移動運動　4 歳 2 か月　手の運動　4 歳 2 か月　基本的習慣　4 歳 2 か月

　　対人関係　1 歳 3 か月　発　語　5.5 か月　　言語理解　4 歳 6 か月

歯磨き　本人　2 回／日（十分でない）　介助歯磨き　1 回／日

口腔内診査時の適応性　拒否行動あり

口腔内所見　O'Leary の PCR　100%　Gingival Index：2

（様式専 4）

下顎前歯部舌面に歯石あり　歯周ポケット測定できず

動揺度	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0
歯周ポケット														
う蝕		C2											C1	
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**
	7	**6**	**5**	**4**	**3**	**2**	**1**	**1**	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**7**
う蝕													C2	
歯周ポケット														
動揺度	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0	M0

歯科治療と保健指導上のプロブレムリストと対応~~(専門的視点)~~

＃1　ASD　知的発達症:IQ35（精神年齢 4 歳 6 か月）　ADL ほぼ自立　DA　基本的習慣 4 歳代

奇声、パニックあり、口腔内診査を拒否、不安感あり

→ トレーニング後に吸入鎮静法

トレーニングで同じ状況で同じように拒否する場合、静脈麻酔あるいは全身麻酔下歯科治療へ

＃2　PCR100%　→　保護者:口腔の清潔の維持は保護者へ委ねる　1 日 1 回を実施しているが、不十分

1 カ所 10 回磨く事から始める

本　人:習慣化のために陽性強化しながら 1 カ所ずつ磨ける部位を増やしていく。

＃3　う蝕治療　上顎左右 6、下顎左側 6→できる限り痛みを与えない浸潤麻酔下で CRF

＃4　歯肉炎　:吸入鎮静法下で歯石除去と PMTC

＃5　PCR100%　→　本人への指導:DA4 歳代なので、習慣化と全体的に歯ブラシを届かすことを目標に指導

保護者へ 1 日 1 回の介助歯磨きの指導　特に歯頚部

歯科治療・保健指導の経過

初診時（202〇年 5 月）　初診来院。診療台へ仰臥位になれなかったので、座位にて口腔内診査。

2 回目　トレーニング　仰臥位になれた。

本人へのブラッシング指導　指導前は下顎臼歯部咬合面のみ磨いた。前歯部の指導を実施

保護者へは 1 カ所 10 回磨く事を指導

3 回　トレーニングにより口腔内診査ができた

本人への指導　前回指導した部位から歯磨きを開始した。新たに臼歯部頬面を指導

保護者は、1 カ所 10 回以上磨いていた。

歯頚部にプラークが見られたので、歯頚部の磨き方について指導

4回　歯科処置シミュレーション、ファイスマスクによる吸入鎮静法に適応

5回目の来院　吸入鎮静法（IS）下に歯周基本検査を実施。歯石除去と浸潤麻酔、上顎左側 6 の CRF

（様式専 4）

6回目　治療前に本人へ TBI（前歯部と臼歯部の歯頸部の指導） IS 下で上顎右側6の CRF　PMT　保護者へブラッシング指導（隣接面の磨き方） 7回目　IS 下で左下6の CRF　　定期検診へ 1回目の定期検診（3か月後）　通法で口腔内診査、歯石除去、本人、保護者へ TBI 本人　指導前に歯磨きを行ったところを観察　下顎臼歯部頬面と上顎前歯部唇面を磨いた。 指導内容は下顎前歯部唇面とした。モデリングで実施でき、陽性強化した。 保護者　PCR26％となり、改善した。染め出し部分を確認してもらい、磨き残し部分の指導を実施した。
専門的な対応によって導かれた結果と予後について 患者の MA4歳代、ADL も自立しており、トレーニング効果の見通しが確認でき、適応性が得られた。歯科治療は痛みストレスを与えなかったためか、スムーズに実施できた。不用意なストレスを緩和するために吸入鎮静法の効果があったと思われる。

＊認定医 2 回更新者以外は、研修手帳に記載された「経験すべき症例」、「臨床経験症例」、「任意の 1 ヶ月間」の中から詳細 5 症例を選択して下さい。
＊認定医 2 回更新者は、過去の経験症例（期日は問わない）の中から詳細 5 症例を選択して下さい。
＊枠は適宜拡げてお使い下さい。